老松

[謡本] 老松 1冊 WA7- 016-001
国立国会図書館

次第

[謡本] 老松 1冊 WA7- 016-002
国立国会図書館

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

[謡本] 老松 1冊 WA7- 016-003

国立国会図書館

[謡本] 老松 1冊 WA7- 016-004
国立国会図書館

こゝろあるこの花やらん　しかるにく
こうたいとのともやへ某ぞや
かたしけなくも御詠哥によわ
ぞ神木の其紀へハあらめとも
我あ浅たられこうらん　さて
此所るかの松また老木なるらう
御詠し　ふる枕てうう　実に

花も梅陰まりし　法経まをひき
讃よゝんかの神木のはしたわ
めする猿是ハ老松乃　なをうくも
わか紀子も結ふの明ゝ　紅梅殿を
法詠すゝ世ぞとも老木の花もわ
よもぢ明やゝかの年らうんて
もはゑさん小おひ我思乃このけ

山陰たるまで清しとなだき所
さびしき木末なれ共松吹清涼
をぬ禽魚も叶かし松に詠しや
猶々當社乃謂委く承り度候へ
先社壇乃躰を拜み奉れば北に
峙て青山ある朧月松閣の
中に映じ南に寂寞たる楼門
あまの釣は平竿なとにすくわ
いたはに火焔の輪掛ある翠帳
紅閨乃粧を忘れず君に古寺乃
回廊あまた晨鐘の響たゆ
ことなし　さればにや心なき草木
あはれやをともがらに浮世の
理を知らざらん思しく名木に

[謡本] 老松 1冊 WA7- 016-007
国立国会図書館

[謡本] 老松 1冊 WA7- 016-008
国立国会図書館

げにや松のけにふるひぬしても風も
守るべくとしの御神が告なるも
待て見せ〳〵いりに紅梅殿
げに東のまの秋ひとをなさなるよとり
明くさめたまふへ来けり
見渡りにけるもふる梅哉
さうひ まきとても 必らず

草木の芳孫 定す見わくる禄
ふく〳〵 哥をうたひ舞をまひ
舞楽をそなふ御宮寺がありも
見ちたるが数や されえた乃
さす枝が梢は若木乃花の袖
こく飛は草木乃神 松の 是は
老木乃禄枝が千世にやちよに

国立国会図書館

[謡本] 老松 1冊 WA7- 016-010

国立国会図書館

[謡本] 老松 1冊 WA7- 016-011

国立国会図書館